

三菱地所は、東京駅前を中心とするまちづくりに加え、これまでも地域と都市を有機的につなげる取組みを推進してきた

地域と都市を有機的に繋げる取組み



東京駅前的大手町・丸の内・有楽町を中心とするまちづくり



3×3 Lab Future

経済・社会・環境を3つを柱にサステナビリティに取り組む共創コミュニティ。メインプログラムの一つである丸の内朝大学の講座にて、逆参勤交代など地域課題を都市部のワーカーと、一緒に考える取り組みなども実施している。



产地直送 バスあいのり便

高速バスの貨客混載にて従来の物流では届かない地域のマイクロな食材を都市に運ぶ新しい物流。産地と都市をバスで繋ぎ消費者の多様なニーズに応える。



空と土プロジェクト

都市と農山村、それぞれが抱える問題を認識し、ともに支えあう持続可能な社会の実現に向け、稲刈りなどの体験ツアーを実施。収穫した米で、純米酒や焼酎なども醸造している。



TOKYO TORCH Park

日本全国の地域と連携し共に地域の魅力を世界に発信。毎週開催されるマーケットでは、日本全国から旬の食材が集まる。JTBと連携し、地域や観光事業者の課題を解決を目指す。



アナザー・ジャパン

学生が自らの地元をPRすべく47都道府県地域産品セレクトショップを運営。地元理解や郷土愛が深まり、地域での就職・起業など将来への関係人口を増やすことを狙う。

三菱地所の食と農に関する様々な取り組み

プラットフォーム



- ・大丸有エリアにある様々な機能・パートナーを活かす
- ・都市と地方、都市生活者と生産者とが食と農でつながる
- ・生産者の所得向上、都市生活者のライフスタイル充実を目指す

丸の内ハニープロジェクト 大手町川端フードガーデン



コミュニティー



食農プロジェクト

- ・日本各地の生産者とエリア就業者・飲食店舗等が連携
- ・「食」と「農」をテーマにコミュニティー形成

生産



MECアグリ
・高糖度トマトの栽培

SARA

株式会社サラ
・大規模農場
・通年栽培

学び・情報発信



- 食を通じて日本を元気に。丸の内働く28万人を元気にする食育を使命
- ・まずは「大人の食育」から
 - ・食を通じて心身ともに健康になれる社会
 - ・国産自給率向上への情報発信

MY Shokudo (常盤橋タワー)

- ・地方自治体と連携したマルシェ
- ・キッチンを核とした食体験の提供 (食育丸の内のベースポイント)

SDGs



- SDGs達成に向けた多様な活動を推進
- ・サステイナブルフード
 - ・気候変動と資源循環
 - ・WELL-BEING
 - ・ダイバーシティ
 - ・コミュニケーション



- 都市と農山村が、お互い元気になる社会へ
- ・農業体験
 - ・丸の内日本酒、大手町焼酎

食と農

地域と都市 (地方創生)



全国各地の農林水産物を高速バスの空きトランクに乗せ、都市に直送
たくさんの方に消費者に、産地や三品の魅力を発信



- ・食に関する提案・発信
- ・食に関する意識・技術の向上、生産者・消費者・シェフを繋ぐ場の提供



- ・日本の飲食ビジネスの問題に対して、具体的解決策を考えるための飲食ビジネス従事者や生産者等向けのスクール



各地の郷土の食材を、
都会のど真ん中で気軽に購入できる市場

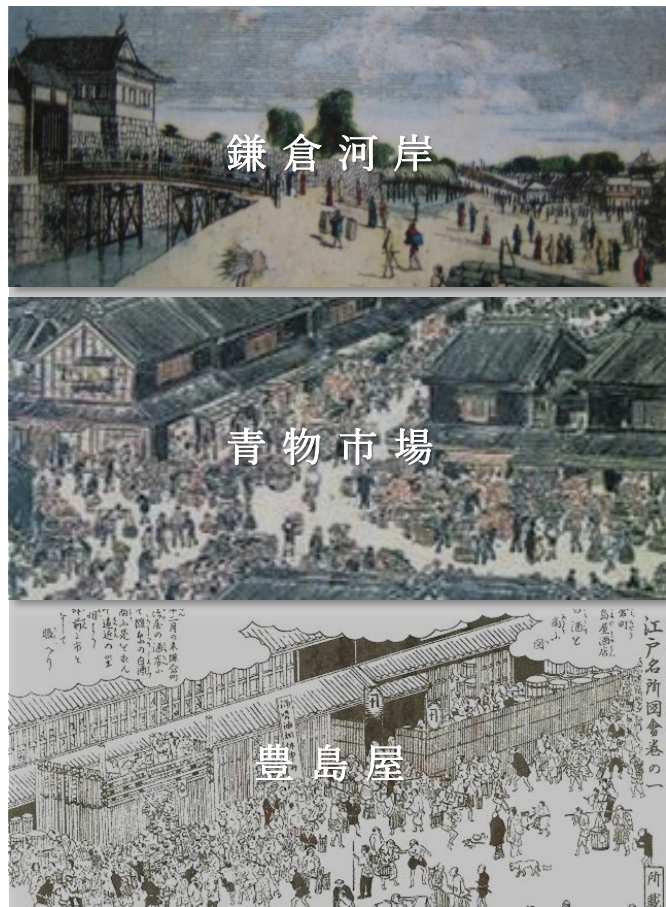
micro FOOD&IDEA MARKET

- 作り手の好奇心と受け手の好奇心が交わる市場
- ・普段は手にすることができない日本各地のmicroな食材を新しい物流の仕組みで運ぶ
 - ・microな菌に注目した調理方法を取り入れてお届けする



タベモノづくりで地域と都市の関係を穰かにする
めぐるめくプロジェクト

三菱地所
2022.08



(仮称) 内神田一丁目計画

建物竣工：2025年11月末 (予定)
 敷地面積：約5,100㎡
 延べ面積：約84,500㎡
 建物規模：地上26階、地下3階
 建物用途：事務所、店舗、駐車場
 産業支援施設ほか

鎌倉河岸：江戸のまちの荷上場
 青果市場：最古の青物市場
 魚河岸：江戸の最初の魚市場
 神田豊島屋：居酒屋発祥の地



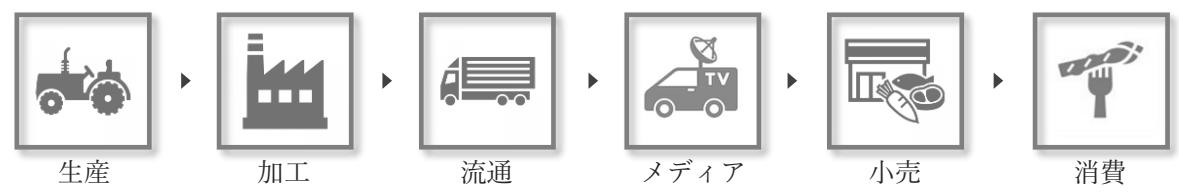
食と農に所縁の深い神田地域



これまで

食糧の安定供給を果たしてきた食と農のバリューチェーン

効率性/経済性を追求してきた現在のバリューチェーンは食糧の安定供給を達成してきたが、プレイヤーが細分化されていることもあり、相互の関係性は希薄となっている結果として生産から消費までの距離が遠くなっている。



自給率の向上
1952年 農地法

安定的な食糧生産
1961年 農業基本法

農業・農村の価値を再認識
1999年 食料・農業・農村基本法
2015年 食料・農業・農村基本計画

これから

大量生産・大量消費だけではない、地域の個性豊かな生産・加工へのチャレンジが求められている

ウェルビーイングに対する関心が高まる中、生活者の食体験も単なる栄養の獲得だけではなくコミュニケーションの手段や新たな気付きや学びを得る機会と捉えられてきており、個性ある生産に対するのニーズが高まっている。

地域のトレンド



個性ある食と農への挑戦

食や農のタベモノづくりを通じ地域を元気にしたいという挑戦者は日本各地に存在する。このプレイヤーを獲得し、応援するための食農の共創拠点が全国に生まれつつあるが、数も少なく認知の拡大もこれからである。

地域内かつ個々の活動に依存しがちな活動

都市のトレンド



食への多様な関わりの兆し

食育として農業体験や都市農業に対する関心も高まっており、更にはテクノロジーを活用することで新たな食のプレイヤーが食の価値拡大を追求する兆しを見せているが、一部の大企業やスタートアップに留まっている。

一部のプレイヤーによる限定的な取り組み

既存のバリューチェーンに限定しない、
全国の主体的なタベモノづくりのチャレンジをサポートする

地域を繋ぐ食農のネットワークを構築し、 全国のタベモノづくりの主体的なチャレンジを加速させるコンソーシアム

1. 地域間の食農ネットワーク構築

地域内に留まる関係性

地域間の連携がなく、成果や知識をシェアする機会や、人材・技術をサポートしあう継続的/日常的なヨコの繋がり、他領域の人材との交流が不足しており、チャレンジャーが孤独に陥る傾向がある。



地域を超えたコミュニティ

一拠点に留まらないネットワークを構築し、新たなチャレンジ（製品の開発や地域に対する取組み）のための知的・人的リソースをコミュニティでシェアすることで、共創の土台をつくる。

2. タベモノづくりチャレンジャーのサポート

チャレンジ初期におけるハードルが高い

食や農のタベモノづくりを通じて、地域を活性化したいというプレイヤーは増えつつあるが、プロトタイプづくりの設備投資や売り先の新規開拓が難しいなど、新たな挑戦に必要な人的/物的リソースへのアクセスに課題を抱えている。



他プレイヤーとの共創

一拠点に留まらないネットワークを構築し、新たなチャレンジ（製品の開発や地域に対する取組み）のための人的・物的リソースをコミュニティでシェアすることで、共創の土台をつくる。

3. 生活者の主体的な参加による共創

得られる情報・視点が限定的

食や農の作り手にとって、生活者の感性を感じる機会は少なく、限定的でかつ無機質な情報のみを頼りに、タベモノづくりに向き合わなければならない。作り手にとって生活者の多様化するニーズを常に理解するためのコストは小さくない。



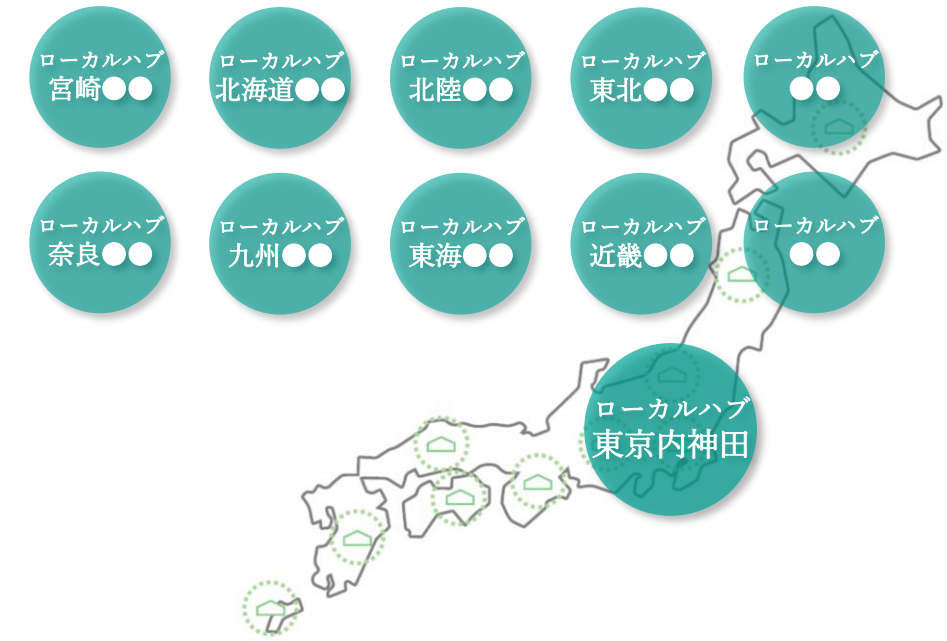
多様な生活者視点の獲得

チャレンジャーのタベモノづくりのプロセスの過程で、生活者が関与することができるプログラム「めぐるめ倶楽部」を継続的に開催し、絶えずフレッシュで多様な視点を獲得できるようにする。

食と農のコンソーシアム

「食/農のめぐり」というコンセプトに共感し、実現を目指す団体同士で情報交換や共創を目的とするコンソーシアム。会員は各種プログラムへの参加ができる他、東京内神田ハブ（内神田一丁目計画）も利用でき、サミット等での各種情報発信も可能となる。（予定）

地域のエリアハブ



地域の取組みのサポーター

食/農関連企業の
新規事業担当者

食/農に関わる
大学・研究機関

組織・企業の
ESG/CSR担当者

食農領域へ進出する
異業種の企業・組織



1

地域内/外の情報交換会

情報交換会 (共有会)

地域での取り組みなどを、双方向で発信しあう情報交換会を設ける。地域による個別の特性などはあるが、参考となる知見の獲得や人的リソースの共有などが図られることで、地域の取組みを加速させることを期待。

仲間づくり

また、地域内でのプレイヤーの発掘や活動を顕在化させることで、プレイヤー間における交流を活性化し、チャレンジ어의仲間づくりにも寄与。



2

生産者・消費者の交流会

共創交流会 (試食会)

まだ試作段階における製品について、消費者の感度を持つシェフやバイヤー、フードプロデューサーなどのコメントを得られる共創交流会を開催。地域のチャレンジャーの背中を押すコミュニティーを形成。

逆参勤交代

都市部や他地域からの参加者が地域の課題にチャレンジする交流会。現地に訪れるフィールドワークなどを経て、地域における関係人口も創出。



3

地域サミットでの発信イベント

発信イベント

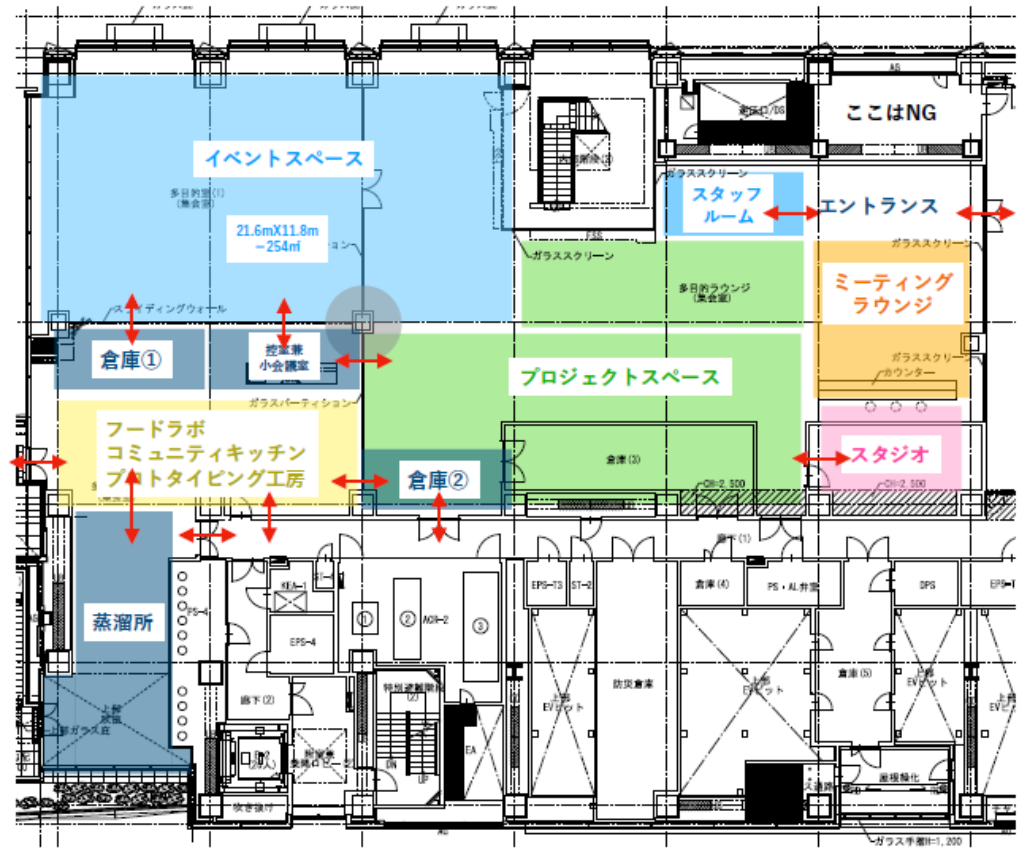
地域のチャレンジを広く周知するためのイベントを開催。一つの地域単独ではなく、同じような熱量・ベクトルをもつ多様な地域が集結することで、その発信力が何倍にもなることを期待。

地域文化祭

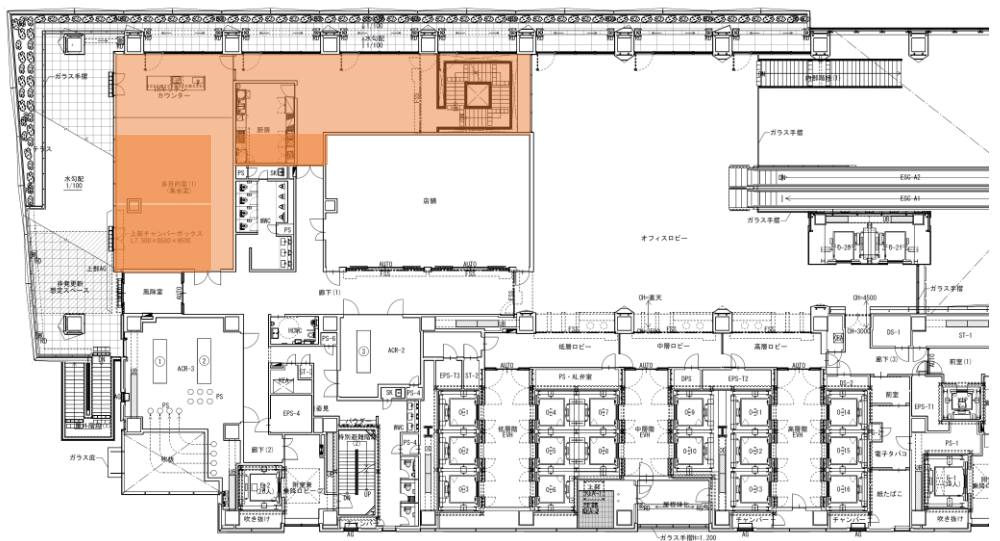
地域の産品だけの物産展ではなく、地域全体を体感する空間演出とともに、地域と食のストーリーを発信する。都市と地域で連動した開催が理想。

2F

施設の中核となるスペースで、イベントスペースやプロジェクトスペースを配置する。コミュニティキッチンも設け、会員同士のコミュニケーションを活性化させる機能も有する。



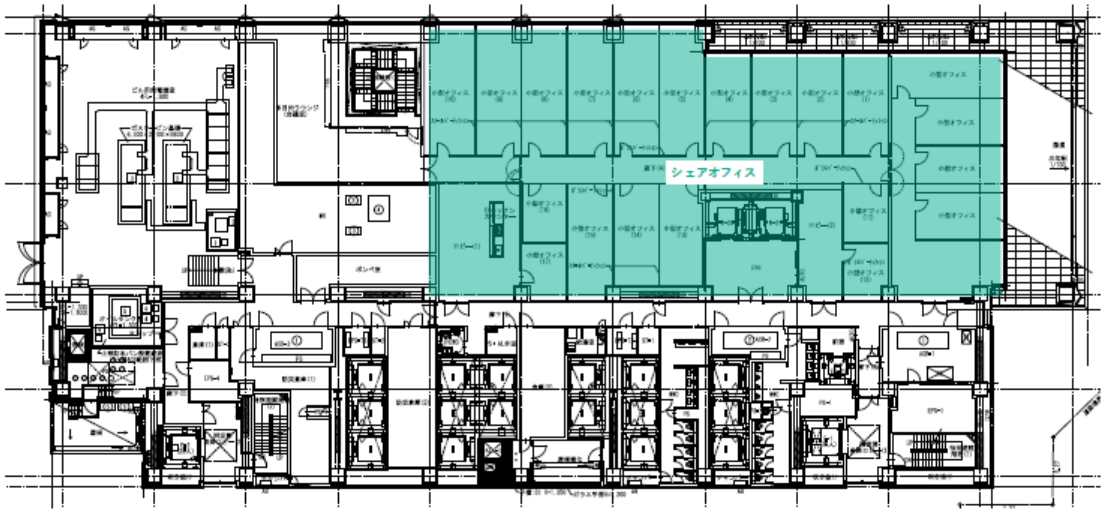
3F



食品加工ができるキッチン
を設ける。一定期間（1日単位
や週単位など）借り上げて利用
するシェアキッチン。



4F



食と農、その周辺領域に携わ
る企業・団体のスモールオフ
イス。また、地方地域におけ
る行政・地域商社などの東京
事務所としての利用も想定。



三菱地所だけでなく、多彩な感性をもつ4社共創のスキームでプロジェクトを推進していく

人を、想う力。街を、想う力。



Loftwork

社会に新しい価値を生み出すために、状況を創造的に捉え、デザインの力で解決するクリエイティブ・カンパニーです。「日本全国の地域でこれから重要となっていく食と農の共創活動の一助を担いたい」という想いを胸に、食と農に携わる全ての人、そして地域のうちにある創造性を信じて、本プロジェクトに参加します。



SIGMAXYZ

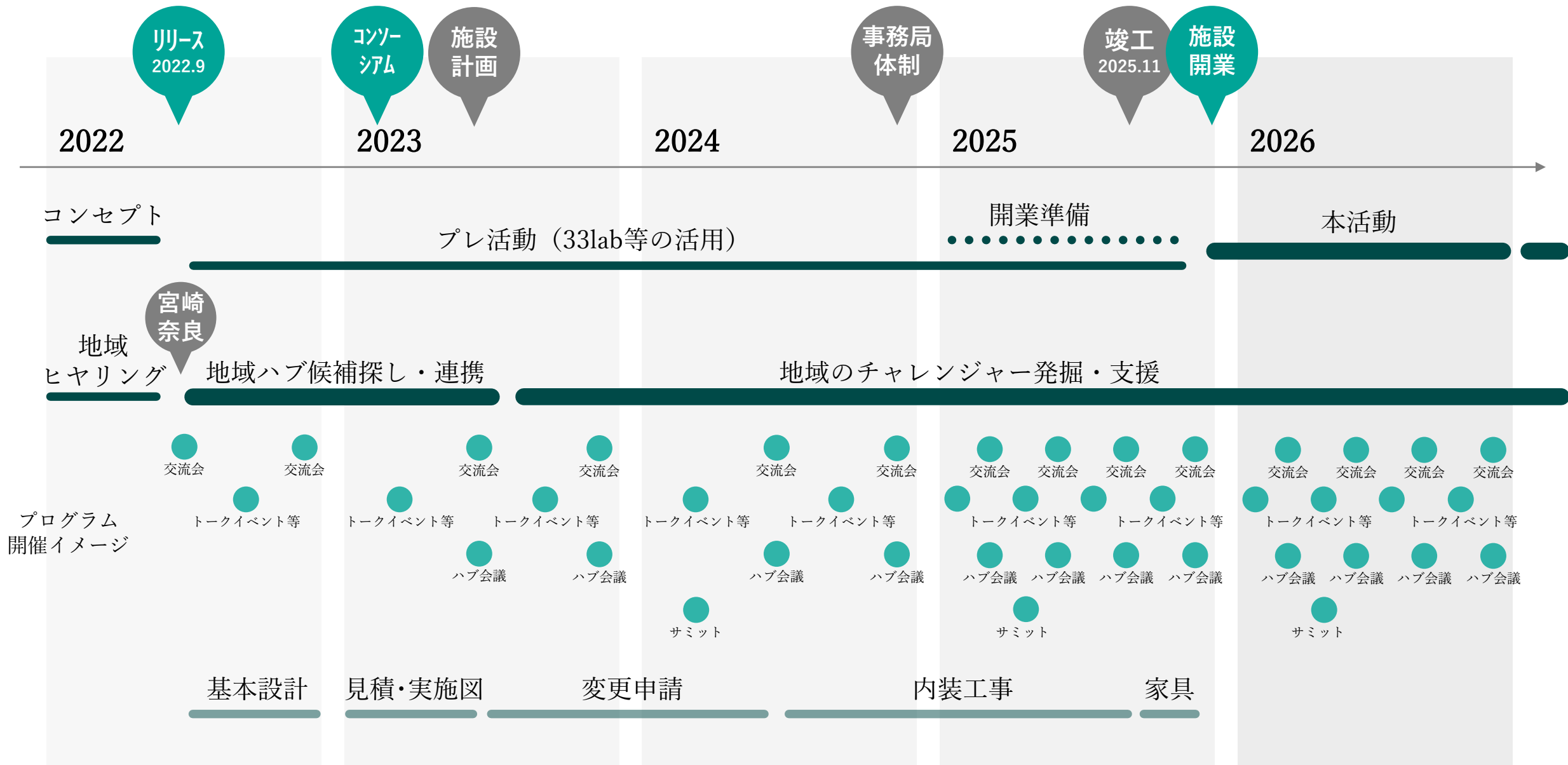
当社は、業界横断型の食のカンファレンス「SKS JAPAN」を2017年に立ち上げて以来、国・地域や業界を越えた多様なプレイヤーによる日本の食の価値共創活動を推進してきました。食への知見と洞察力、国内外に擁する広大なネットワーク、事業開発のナレッジを生かし、日本各地の豊かさが生きる「食・農の価値」の共創に貢献します。

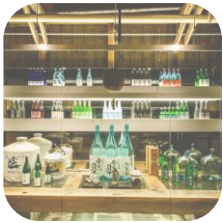


70seeds

「次の70年に何をのこす？」をコンセプトに掲げる、チェンジメーカーのためのPRと編集の会社です。ウェブメディア『70seeds』の運営を通じて出会った日本全国の「つくるひと」の技と「たべるひと」ひとりひとりの生活がより深く、より軽やかに交わっていくようなプロジェクトをつくっていきます。

開業前から地域のハブとの連携を拡大することでコミュニティを形成し、地域のチャレンジャー発掘・支援を推進していく





タベモノづくりで地域と都市の関係を豊かにする
Grow Food, Grow Community

良いタベモノづくりが良いコミュニティを育み、
良いコミュニティは良いタベモノづくりを育む。
そのようなタベモノづくりを通じて、
地域と都市の豊かで持続的な関係づくりに
我々はチャレンジしたい。

三菱地所
プロジェクト開発部 内神田開発室